

Kayserrinn ㇻ Amphora

美術工芸資料館 特任助教 和田積希

2021年7月26日(月)より11月6日(土)(緊急事態宣言の発出により8月20日〜9月30日は臨時休館)まで、京都工芸繊維大学美術工芸資料館の開館40周年を記念して、「開館40周年 第一弾 新デザインへの渴望―京都高等工芸学校とドイツ・オーストリアのアー・ヌーヴォー」展が開催された。

この展覧会は、京都工芸繊維大学の前身校のひとつ京都高等工芸学校で、1902(明治35)年の開校時より、デザイン教育のため海外から収集されたさまざまな資料のうち、近年まとまって展示されることのなかったドイツ・オーストリア(ボヘミア・ハンガリーを含む)製の資料を紹介する展覧会である。1900年のパリ万国博覧会をきっかけに世界的な反響をよびおこしたフランスを中心とするアー・ヌーヴォー様式は、やがてドイツ語圏へと伝播し、総合芸術を目指すウイーン・ゼツェンションの活動やドイツ版アー・ヌーヴォーともいべきユーゲント・シュティール様式の成立へと展開した。

京都高等工芸学校の初代校長、中澤岩太(1858・1943)や色染科の教授、鶴巻鶴一(1873・1942)らはドイツへの留学経験を持ち、図案科の初代教授、武田五一(1872・1938)や浅井忠(1856・1907)の死後、図案科の教授に就任した本野精吾(1882・1944)らも留学や出張を通じてドイツやオーストリアのデザインを強く意識していた。時代の要請にしがたって、京都の主力産業であった美術工芸品のデザインから、室内装飾や建築装飾を含む総合的なデザイン教育へと舵をきった京都高等工芸学校の初期教育には、このドイツ語圏のデザインが大きな影響を及ぼしている。

さて、本稿ではこの展覧会を通じてその出自が明らかとなったふたつの資料を紹介したい。ひとつは、ドイツ製の工芸品として唯一1902年に購入されたユーゲント・シュティールを代表するメーカー

のひとつ、「P.カイザー&ゾーン社」(P. Kayser & Sohn)によるカイザーティン(Kayserrinn)ブランドのピューター(錫との合金)製品である。同社の作品については、1989年にニューヨーク近代美術館(MoMA)で初めて大規模な展覧会が開催されている。

1840年代よりデュッセルドルフ近郊でピューター鑄造を続けてきたカイザー家は、その後ドイツ西部の都市クレーフエルトに移転し、1962年以降本格的なピューター鑄造所を設立して、大量生産を開始した。1894年には創業者の息子であるエンゲルベルト・カイザー(Engelbert Kayser, 1840・1911)によって、ケルンにデザインスタジオが設立され、同社のデザイン部門を管理するようになった。このスタジオには、ウイーン工芸学校やデュッセルドルフ美術アカデミーで学んだフリーゴ・レヴェン(Hugo Leven, 1874・1956)や、のちにヒルデスハイムの工芸学校で教授をつとめるヘルマン・ファウザー(Hermann Fuser, 1874・1947)などの著名な彫刻家やデザイナーが招聘され、積極的なデザイン戦略を展開した。植物の浮き彫りとデコラティブなフォルムで1900年のパリ万国博覧会のほか、1902年のトリノ現代装飾美術国際博覧会、1904年のセントルイス万博でも金メダルを受賞している。

1894年頃以降に製造された製品には、底部に「Kayserrinn」の銘印と4000番台の番号が刻印されており、当館の所蔵品5点にも見受けられる(図1)。また、1900年頃に発行されたとみられる同社のチラシには、当館所蔵の《スズラン模様バスケット入れ》と同じ製品が掲載されている。このチラシをみると、同社が宮廷御用達であったこと、ベルリンやフランクフルトなどにも支店をもっていたことがうかがえる。

また当館所蔵の図2の資料は、片面はアイリス、片面はヒナゲシの

ルド)「からとったと言われている。開校直後これらのデザイン資料の購入に、鶴巻が関わっていた可能性は高い。

さてもうひとつは、陶磁器生産で栄えたテブリツェ地方(現在のチェコ)の工房のひとつアンフォラ(Amphora)の製品である(図3)。



図3 アンフォラ(テブリツェ地方)白鳥模様水差し花瓶 / 銘印
1876・1894年、1910年購入、AN.1352



図4 パウル・ダクセル芸術陶器(クラ模倣タイプ) / 銘印
1903・1910年、1910年購入、AN.1369



図5 アンフォラ(連珠模倣花瓶) / 銘印
1915年以前、1915年購入、AN.1676

18世紀末ボヘミア西部のカロロヴィ・ヴァリ近郊で、素地や釉薬の原料となる白く耐火性の高いカオリンが産出されたことよって、テブリツェ周辺は陶磁器産業の中心地となった。20世紀初頭には30をこえる陶磁器工房が存在していたという。そのひとつが1876年にアルフレート・シュテルマッヒャー(Alfred Stellmacher, 1837・1906)によって設立された陶磁器工場に起源をもつアンフォラである。東洋的なモチーフとネオバロック様式にもとづく装飾性豊かなデザインで人気を博した同工場の作品は、1889年にパリ万国博覧会で金メダルを受賞した。その後、1892年にアルフレートの後押しによって、息子のエドゥアルト・シュテルマッヒャー(Eduard Stellmacher, 1868・1932)と義理の息子たちによって、リースナー・シュテルマッヒャー&ケッセル(Riesner, Stellmacher & Kessel)が設立された。ドレスデンの美術工芸アカデミーに通ったエドゥアルトがデザイン芸術監督を、彼の義兄弟でアカデミーの同窓生でもあったパウル・ダクセル(Paul Dachscl)がクリエイティブデザイナーをつとめ、一貫して「アンフォラ」のブランドで製造をおこなった。1893年にアンフォラはシカゴ万博で最高賞を受賞、その後もさまざまな展覧会で受賞した同社は、第2、第3の工場を設立し、動物のモチーフを立体的に表現したアー・ヌーヴォー様式を取り入れたデザインで一躍有名となった。一方で、アルフレートの工場は、1894年にウイーンで陶磁器販売を手がけるエルンスト・ヴァーリス(Ernst Waliss, 1837・1900)によって買収されている。

1904年以降、パウル・ダクセルとエドゥアルトが独立し、それぞれパウル・ダクセル芸術陶器(Kunstkeramik Paul Dachscl)とエドゥアルト・シュテルマッヒャー&コー(Ed. Stellmacher & Co.)を設立した。ダクセルは、植物をいかした大胆な浮彫とフォルムに直線や幾何学模様を取り入れたシンメトリーなデザインで人気を博したが(図4)、残念ながら1910年に破産。エドゥアルトの工場も馬やドラゴン、昆虫といったモチーフを用いた独創性の高いデザインや幾何学的なデザインに取り組んだが、同じ頃に倒産している。

立体的な模様が施された砂糖壺とクリーム入れである。同柄であることから、コーヒーあるいはティーセットの一部であったと考えられる。いずれもフリーゴ・レヴェンのデザインによるもので、1900年以前のモデルと考えられる。

クレーフエルトは、絹織物を中心とする繊維産業で栄えた都市であり、開校前の鶴巻の留学先のひとつであった。余談であるが、鶴巻は研究のかたわら、多くの染色作品を制作した。その際用いた号が「呉野(ごや)」であり、留学先の「呉・クレ」「野・フェルト(フイー



図1 《銘印アイリス・ヒナゲシ模倣砂糖壺》銘印



図2 フリーゴ・レヴェンデザイン、P.カイザー&ゾーン、1894・1902年購入
左:《銘印アイリス・ヒナゲシ模倣砂糖壺》AN.0704
右:《銘印アイリス・ヒナゲシ模倣クリーム入れ》AN.0705

2人の退社後は、ハンス・リースナー(Hans Riesner, 1863・1920)がアンフォラの芸術部門を率い、1945年に国有化されるまで存続した。

当館には、1910年から1915年にかけて購入された、底部にアンフォラやシュテルマッヒャー、パウル・ダクセルなどを示す銘印が押された作品が9点収蔵されている。動物のモチーフを用いた装飾性の高い作品が多いが、幾何学模様の作品(図5)も存在している。本作品を含め当館の陶磁器・ガラス器コレクションのなかには、フランスのプーランジェ社ジョワジー・ル・ロワ窯やハンガリーのジョルナイ工房、アメリカのティファニー社のように、当時欧米で盛んに開催された万国博覧会で受賞を果たした著名なメーカーによるものが多い。京都高等工芸学校が開校する直前に、中澤や浅井らが訪れた1900年のパリ万国博覧会をはじめ、教員たちは海外留学や海外出張を通じて常に最新の情報を仕入れ、ヨーロッパで流行していた多様なデザインサンプルを集めようとしていたことがうかがえる。

参考文献

- J.P. Kayser & Sohn(ごご)
- http://www.kayserrinn.de/index.php?id=7 (最終閲覧日: 2021.7.17)
- https://shop.neugalerie.org/products/kayserrinn-engelbertkayser-jugensstil-pewter-from-cologne-english-and-german-edition_ (最終閲覧日: 2021.7.17)
- https://sense-artnouveau.com/biography.php?arts=KAY_ (最終閲覧日: 2021.7.17)
- https://www.ebay.ie/itm/183682448360?mkw=&mkcid=1&mkrid=528253468-19255-0&campid=5337743208&rcoid=11200&customid=SI_art%20nouveau%20pewter%20power%20power%20power%20power%20power (最終閲覧日: 2021.7.17)
- (最終閲覧日: 2021.7.17)
- Amphora(ごご)
- https://artnouveauclub.amphora-stk-waliss-art-nouveau/ (最終閲覧日: 2021.7.17)
- http://www.gos-star.com/antiquing/bohemia_pottery.htm (最終閲覧日: 2021.7.17)
- https://www.amphoracollectors.org/blog/ (最終閲覧日: 2021.7.17)
- https://www.jasonjaques.com/historic/kunstkeramik-paul-dachscl (最終閲覧日: 2021.7.17)